

令和4年度第5回社会教育委員会議 会議録

日 時 令和5年1月25日(水)

14:00~16:20

場 所 第二庁舎2階北会議室

出席委員 藤島議長、今田委員、植田委員、大西委員、大村委員、柴田委員
瀬川委員（7名）

欠席委員 北岸委員、坂木委員、東委員（3名）

事務局 教育委員会：斎藤教育部次長

生涯学習課：河本課長、斉藤課長補佐、佐々木主査

1 開 会 生涯学習課長

2 挨拶 社会教育委員会議議長

3 議 事

（1）第六次苫小牧市生涯学習推進基本計画策定について

議 長 それでは第六次苫小牧市生涯学習推進計画策定について、事務局から説明願います。

課 長 変更案一覧についてですが、先日送付したものから一部変更があります。修正したものをお配りしましたので、これを使って説明させていただきます。

（基本施策Ⅰについて説明）

議 長 基本施策Ⅰについて何かあるか聞く前に、前回の会議で委員の主語がどうなっているかという質問について回答をお願いします。

課 長 あくまでも市の計画ということですから、市としてこうして行きますというのが基本です。ですから、主語は、市はこうします、市は生

涯学習をこういう風に進めたい、ということになります。市民としては具体的な事業にどう参加して行くか、ということになります。市民が参加する土台を市がこういう事業を用意します、この方向性で市がやりますという計画になって行きます。どの計画もそういう形になっていると思います。

議 長 文の言葉尻とか気をつけた方がいいと思います。それでは基本施策 I についてなにかありますか。

委 員 虐待や発達障害について、市民的な合意を作って行くという点で、この字句を入れて、親しみやすい形にしたところは良かったなと思います。しかしながら、いくつか疑問があるのですが、五次と六次を比べてみると、前回の時もお話させていただきましたが、六次の方が市民に対するアピールより、中心的な人材を作ることに重点が置かれているのではないかと思っているのですけれども。例えば基本施策の I の「発展する郷土を創造する人づくり」という表現をされておりますが、引っ掛かるのは、発展とは具体的にどういうイメージを持たれているのか、例えば共生社会を実現するために様々な方策をするのかなのか、人材的に厳しくなっているのでリーダーを作って行くということなのか、イメージがつかめない。これについてはいかがでしょうか。

課 長 いろいろなイメージがあると思います、経済的な発展ですとか、社会が大きくなって行くとか、社会の変化と言いますか、社会の変化に主体的に関わって行く、苦小牧が変わって行く、経済的にとか、市民の考え方とか、その変化に対応して行く、発展が正しいのか微妙なところがあるのかもしれませんが、変わって行く苦小牧をより良いものにして行く、それを支えるのは市民であり、みんなが学ぶことによつて地域づくりをして行ければというイメージで使っています。

委 員 ここで大事なところは、「意欲と目的を持って学び続け」のところ、それは苦小牧の特定の方向を指し示すのではなくて、共生社会を苦小牧の中で具体化して行くという中身の方に重心を置くというのが趣旨なのかなと思いました。ですから、発展というあいまいなことではなくて「すべての市民が」と「発展」がいらぬのではないかなと思います。

議 長 「創造する」という言葉ですが、すごくスケールが大きい。市民個人としては創造という言葉が正しいのかどうか。

委 員 「創造する」という言葉は、僕は肯定的に受け止めているのですよ。新しい価値観を含めて障がい者とか様々な立場の人たちが参画するため、画一的な基準を提起するのではなくて、それぞれが知恵を出してまちを作りましょうね、という意味合いとして僕は受け取りました。

議 長 「創造する人づくり」と結びつけてしまうと、少し大きすぎるなという感じがするのですよね。創造とは新しいものを作るということですからけれども、苫小牧市民としては小さいことの積み上げなのかもしれないですけれども。

課 長 ここを作りながら思ったのは、「創る」ではどうかかと。「創る人づくり」ではつくるが重なってしまいますけれども。人を育てるとか、創造するというイメージを残しながらのやり方もあるのかなと。

議 長 他に御意見は。

委 員 前回、主語の話をしたので、そのことでお話ししたいのですが、今回の変更案でも、「努めます」の主語は「市民が」としか受け取れない。すべての市民が参画し、努めますとしか取れない。努めるのが市であるならば、文を工夫しないと上手く行かないと思います。案ですけれども「すべての市民が」を外すだけで、文としては成立するはずなのですよね。「すべての市民が」を入れたいのですが、無くした方が、文章がよく通ると思うのですが。それが第1点、もう一つは、変更前の方がシンプルでいいのではないかと思います。「発展する郷土を創造する人づくり」は修飾語が続き過ぎてちょっとわかりにくいかなと思います。

議 長 他の自治体での計画でも「努めます」はよく出てくる。

課 長 割と使いやすい言葉です。

- 次 長 計画なので、「推進します」という言い方をよくしますけど。
- 課 長 他には「人を育てます」とか「育成します」とか、表現の仕方はあると思いますけれども。委員がおっしゃったように「すべての市民が」を取ればすんなり行くのかなと思います。決まり文句的に、つい置いてしまうというのがあります。意見を言うていただくことで我々も違う視点で考えることができます。
- 委 員 代案を出すならば、洗練された文ではないですが「すべての市民が」を入れるとすると、「すべての市民が意欲と目的を持って学び続け、地域のまちづくりに主体的に参画し、発展する郷土を創造する人材となるよう人材の育成に努めます」というような、いったん切るといのはどうかと思います。
- 議 長 会議で文を完成しなければならないのですか。
- 課 長 いいえ。皆さんで意見を出してもらって、最終的にはこちらでまとめたいと思います。
- 議 長 あと何回ぐらい会議を開きますか。
- 課 長 今日の会議の意見を一回整理して、市民向けのパブリックコメントにかけたいと思います。それと並行しながら、あと1回か2回はやれたらいいなと思っています。パブリックコメントの期間は1か月ありますので、その間に開催したいと思っています。今日の意見を整理したものを委員の皆様へ送って検討してもらった方がいいと思いますので、もう一回集まってもらい、あるいは郵送したものを見てそれに対する意見を郵送で出してもらって、それを整理して集まってもらいましょうか。あとは委員の皆さまの都合によって。
- 委 員 集まれる人は集まってもらって。
- 委 員 これが良いという話がいくつか出たのですけれども、委員の皆様へ意見を出してもらって、事務局で整理をしてもらって、これはどうですかと送ってもらって、それに意見を出す、ということによろしいですか。

- 委員 前会の会議でもお話しましたが、男女協働とジェンダーの問題は違うのではないかと。社会的に議論して行くことが重要ではないかと。
- 課長 施策としては、施策の展開の06「すべての世代に対する学びの支援」について、具体的な施策として、15「性の多様性やジェンダーギャップに関する学習機会の充実」の中に含まれてくるのかなと思います。施策の展開06にもし加えるのであれば、ここに文章を加えて表に表すことができるのかなと思います。「価値観が多様化」の部分を少し修正して、男女協働のことにしましても、これまでのことから、これからのことを書き入れて、そこからジェンダーにつなぐ文章を入れることも可能かと思います。
- 委員 タイトルの「すべての世代に対する学びの支援」を工夫することが必要ではないかと。ここにぶら下がるのが地域課題、性の多様性、国際理解とかですよね。タイトルを工夫して、それから中の文章を修正するのが必要ではないかと。
- 課長 世代を超えた社会の大きな問題。
- 委員 特にジェンダーを入れるのであれば世代を問わない問題である。
- 委員 「すべての世代と階層に対する学びの支援」では。
- 次長 「階層」はあまり良いイメージがないのでは。
- 課長 「階層」はあまりプラスのイメージがない気はするのですが。ここにSDGsのことも含まれている感じがします。
- 委員 「地域の課題」というのがどうもすっきりしない。地域とはどこを指しているのか。居住している地域のことなのか、苫小牧市全体をいうのか、地域の課題のイメージがわからない。
- 課長 人によってイメージは違うとは思いますが、生活の基盤というか、生活圏というか、そんなところになるのではないかと思います。決まり文句として使ってしまうという部分があります。もっとい

い表現があれば。

- 議 長 人によって立場などが変わればそれぞれイメージが違うのでしょうか、それはそれでこのままでいいのではないかと思います。他に意見はありますか。
- 委 員 施策の展開 0 5 「障がいを意識させない学びの支援」のところで、不登校や様々な原因で学習について行けない子供たちについて、学校の先生は大変苦勞していると思うのですが、支援する視点でこの問題を具体化してもらえないか。0 5 で展開する中身ではないですけども。
- 課 長 学校との連携の部分で、具体的な事業の中で取り組んで行くことになるのかなと思いますけれども。
- 委 員 学びなおしは卒業した方々が対象となるのでしょうか、青少年の課題として・・・。
- 課 長 学校に通う年代のお子さんの、学習についていけないこと等のフォローの話ですよね。例えば施策の展開 0 2 の学校ではできない部分を地域等でカバーして行くというイメージですかね。
- 次 長 学校教育の方でも不登校の問題が一番の問題となっているので、どこかで見えるように不登校という文言があった方がいいのではないかと思います。
- 課 長 施策の展開 0 2 で青少年の問題について、学校では取り込めない部分について、地域で補うというイメージで取り込めればなと思います。
- 委 員 施策の展開 0 2 の中で、「社会、社会参加、社会貢献への意欲向上を促し」とありますが、これでいいのですか。
- 課 長 さっき読んでいて私自身も気になったので、「社会」を削除します。
- 委 員 施策の展開 0 5 の、具体的な取組 1 2 なのですが、この文章では、障

がいとの関係がどうなっているのか。障がいを持っている人が、という含みがあるのでしょうか。

課長 そうですね。障がいをもっておられる方が、社会の中で実際に能力を発揮するための知識・技能を育成するための支援ということですね。

委員 そういうことであれば理解できるのですけれども。一般的にみるとここにあることなのかと思ったものですから。
新しく付け加えられたところで、「幅広い教養を身につけるための学習」との関連がわからなかったものですから。

課長 ここは障がいを持ってられる方だけではなくて、すべての人が、幅広い教養と書いていますが、障がいをもっと知っていこうというイメージで書いています。

委員 だとすると具体的な取組は、そっちに近いのかなという印象があります。

課長 むしろその部分は具体的な取組13に含まれてくるのかなと考えてはいます。

委員 わかりました。

議長 施策の展開01の具体的な取組2「0歳から学びに親しむ環境づくり」について、保護者がそういう学習をした方がいいということで、言っているのかなという気がするのですけれども、そうなるに変更案の方で、「生きる力」と「共感力」というすごい言葉が出てきたのですけれども、それに0歳がくっつくと、0歳から教え込むとなるとちょっと無理があるのかなと思うのですけれども。

委員 環境づくりをどう進めていくかということですよ。0歳から何を学ばせていくのか。例えば絵本を読み聞かせるとか、あるいはいろいろな映画を見てもらうだとか、このころから同世代、異世代の人たちと交流するということを含めて、0歳から学びだなと僕は感じていて、この環境をどう作るかということではないのかなと。

議 長 0歳からの子供たちの環境づくりということであれば、それを通じ
ると思うのですけれども、その前に「生きる力」や「共感力」が入っ
てくるとどうなのかなと思うのですが。

課 長 「0歳から」というのは前回の文言を生かしたものですけれども、0
歳がなくても「生きる力」や「共感力」を育む環境というものを作っ
て行くのがいいのかなと思います。年齢にはこだわらない、そもそも
子供全体の話になっていますので。具体的な取組2の中で「0歳」は
入れていますので。

委 員 「0歳から」はいらないのかもしれないですね。

委 員 「子どもの「生きる力」や「共感力」を育む、学びに親しむ環境づく
り」とした方がすっきりする。

委 員 僕に孫がいるのですけれども、「生きる力」や「共感力」なのですが、
絵を見せたり絵本を読み聞かせることによって、それが一つの動作
につながってきているということは言える。旧市立病院跡地にたく
さんのお母さんとか集まってやっているが、あれでも足りないとい
うお母さんたちの言葉は聞いているのですね。0歳のお子さんが、勿
論一人ではできないので、保護者方とですね、何かできることでとい
うことで、一つ何か考えられないのでしょうかねということが、施策
の話ではないのですが、それは聞いたことがあります。わざわざタイ
トルに「0歳から学びに親しむ環境づくり」とあるのは、それがあ
るからではないでしょうかね。「生きる力」や「共感力」が0歳と結び
つきにくいというのはたしかにある、0歳にわかるわけないだろ
うと。でもそうではないのですよね。0歳で絵を見せたことが、1歳2
歳で心に現れる。「生きる力」や「共感力」が表に出たとき、難しい
言葉を使っているのではないかと言われる可能性はある。あまり難
しい言葉を使わないですっといった方が良いとは思っているのです
けれども。

課 長 順番を替えることで、例えば、0歳から学びに親しむ環境づくりをす
ることによって、「生きる力」や「共感力」を育む、という形にすれ
ばそんなに違和感なく収まるのかなと、今聞きながら思ったのです
けれども。

- 議 長 いいのではないですか。
- 委 員 僕も賛成です。重ねて言えば、ミルクをあげる時にもお母さんたちがスマホを見て子どもと目を合わせないということが、赤ちゃんはコミュニケーションを取るうえで阻害要因になっているという部分がある。委員が言うように、子育てを0歳でどう表現していいのかわかりませんが、母親への支援も一方で考えていかなければ子育てもうまく行かないのではないかなと思います。
- 議 長 このことについて意見がなければ、課長の言うように訂正をしていただければと思います。
他に御意見はございますか。
- 議 長 学校の先生にお聞きしたいのですが、施策の展開02に「学校教育に重点が置かれる青少年期だが」と断定している文言になっているのですがそのままだいいのですか。青少年とはイメージとしては小学生、中学生、高校生あたりでしょうか。
- 委 員 何を言おうとしているか判然としない部分ではある。子ども達は学校生活にエネルギーを注がざるを得ない年代だよという中身なのだろうと思うのですが。表現の仕方に工夫が必要かもしれませんね。学校教育というのも広い概念ですから、子ども達が学ぶというのは教科を学ぶだけではなくて、友達との付き合いとか、学級とかグループの中の自分の役割とか、様々なことをここで表現しているのだろうなど。もしかしたら違う表現方法があるのかもしれないなと思いました。
- 次 長 先ほども不登校の話があったのですが、不登校の問題や部活動の地域移行だとか、学校だけでおさまらない課題がすごく多くなってきて、そういったところが学校だけでなく社会全体で色々見て行きましようというようなことだと思うのですよね。それで最初の表現に不登校を絡めながら書ければいいのかなと思います。
- 委 員 学校だけでは抱えきれない部分もあるので、そこを地域の力をお借りしながら、という形で文章を作った方がいいのかなと思います。

議 長 施策の展開 03 の最後の行に「学び続ける人を支援する制度の充実」とありますが、「制度」とは何なのですか。

課 長 学び続ける制度の支援ですね。学ぶ場を作って行く、スキルアップだとかそういった学習の機会を作って行くというのですか、市の施策として学ぶためのサポートをやって行きますということですか。

委 員 もしくは「学び続ける人を支援する場の提供に努めます」とか。

委 員 制度というのは市がお金を出してね、ある程度のものを作り上げて行くという、文章を見る側はそういう風に受け取る。いろいろなことにお金を出してやっている、先生に来ていただいたりとか。そういうものが現実には何件かあってそういうものを形作っていきましようというのが、五次と同じ「制度」という言葉を使っているのが、そういうことを言っているのではないかと思っている。社会教育委員が予算をつけるとは言えないが、市が予算をつけてやると言っているのだから、じゃあお金つけてやってよと、そういうスタンスで理解をすればいいかなと思っていたのですけれども。「努めます」とか「進めます」とかは言うが、「やります」とは絶対言わないのですよね、推進計画というのですね。本来は～しますとか、市長公約とか権限を持って言う。我々社会教育委員も言いたいのですけれども、そういう権限がないので、計画にある程度ねじ込ませて、制度を作るのだよ、もっと充実した制度を作ってくださいよと、そういったものを市民じゃなくて市が言うのなら、じゃあやってくださいよと。

次 長 この後ろにどういった制度を意識してもともと五次で書いていたのかも含めて確認させてもらって、具体的な制度があればそのまま残しておけばいいし、なければ「制度」を取ってもいいですし、ひろく支援しますということで整理したいと思います。

委 員 制度というのも大事なもので、自殺の問題で、苫小牧市は自殺率の高い地域の一つですが、自殺相談を受けるのも資格がなければ受けられないという仕組みになっているようなのです。発達障害にしても、様々な分野でも専門家をどういう風に作るかという課題は、社会教育で全部解決するというわけにはいかないが、あるなと思

ます。

議 長 施策の展開 0 4 「長寿社会のニーズに合わせた学びの支援」で、「多様な人生経験に基づく知識や技能」とありますが、「人生」を削ってもらったほうがいいのではありませんか。

課 長 そうですね。

議 長 他になれば、基本施策Ⅱに移りたいと思います。

課 長 （基本施策Ⅱについて説明）

議 長 御意見ある方はいらっしゃいますか。

委 員 言葉の意味なのですが、「コミュニティ・スクール」とはどんなスクールですか。

次 長 新年度に全ての学校で始まるのですけれども、学校運営協議会という組織を学校ごとに持って、地域の人とかそこに入ってくる企業とか隣の学校とか、そういった組織体で学校運営を協議する。そういった学校をコミュニティスクールと言います。今、勇払地区と清水、開成が先行して導入しているのですけれども。

委 員 第五次の中では。

次 長 無かったです。

委 員 言葉としては全国的にあったけど、苫小牧市には実際にはなかった。

次 長 そうです。新しく入ってきたものです。

委 員 わかりました。

委 員 施策の展開 1 4 具体的な取組 3 6 の修正で「高等教育機関と生涯学習関連施設との連携講座の充実」とありますが、どことどこが連携するのですか。

課長 具体的なものでは、アイビープラザでやっている長生大学ですが、北洋大学と連携してなにかやりたいねと話しているのですが、そういったものを少し広げていって、いわゆる高等教育機関と生涯学習施設でのサークルとかを結びつけて行くことをできないかと。

委員 その2つを結びつけるということですか。「と」ではなく「や」かなと思ったものですから。

委員 Iの課題とIIの課題が重なる部分が多くて、その関係を整理して行くことが大事ではないかと。もっと言うとIの課題をIIで補助していくのだよということにして行く必要があるのではないかと。第2は、環境を持っている人たちにとってはIIの大学との連携とか有用な政策かなと思ったりもするのですが、環境がないですとか、基本的な知識を持ってない人とか、身障者、高齢者、聴覚障がい者とかが参画できる保証をどうやって作って行くのか、具体的に考えてゆく必要があるのかなと考えていました。とりわけせつかく大学とか公共機関のお力を借りるのであれば、この資料を視覚障がい者にこういう風に提供しますとか、DVDを貸し出すとか、そういう対策も必要ではないかと。第3は、この課題はどこまで進んでいるのかということで、前回委員が指摘したとおりだと思うのですが、この課題だけが独り歩きするのではないように、チェック機能、総括して点検しながら決めて行くようにしないと、主語が明確になっていないときにそれだけが走ってしまわないのかと僕の中にはあるのですが。この3つをどういう風にお考えでしょうか。

課長 施策Iでこちらがイメージしているのは、あくまでも個人に焦点を当てています。IIは制度的な部分ですね、こちらを中心に展開している作りになっています。Iの部分を支えるというか、先ほど制度という言葉がでましたが、IIの部分で制度をどうやって作って行くか、個人がきちんと学んで行くための土台になる部分をIIの中で作って行く、という風に考えています。
障がい者のところの、細かい障がい者の点字だとかDVDの話になると、具体的な取組の下にぶら下がっている各事業の話になってくるのかな、と思うのですが。
例えば図書館での点字図書や録音図書の貸出とか、そういったもの

を充実させていくのはそれぞれの事業でやって行くのですけれども。

委員 委員の言うのは、この施策が市民全体に見ていただいたりするために、聴覚障がい者や視覚障がい者に何かやった方がいいのではないかと聞こえたのですが。

委員 この計画をとということですね。出来上がったものを録音するのか、そういった方法を取るということですね。今までやったことがあるとは聞いていませんが、何か福祉の部分で対応できることがあるのかもかもしれません。すぐにはお答えできませんが。

委員 障がい者の人たち、高齢者を含めてね、どういう風にするかということはもちろん、具体的には、各担当する部署でやるわけで、もちろん生涯学習課が用意するのはあり得ないわけで、それは課長が言う通りなのですけれど、第三第四次の苫小牧市障がい者計画のなかで、このように ICT の活用で聴覚障がい者に提供するよう明記はされています。でもね、他人任せでいいのか、僕たちがこれを大事にしているという部分では、社会教育委員としても任せますよというのではなくて、配慮しますよとか、準備に気を付けますよとか、項目は必要だと思えます。

課長 そうなりますと、I の部分の話になってくるかと思えます。障がい者がきちんと学ぶことができるような取組になってくるのかなと。施策 I 施策の展開 05 の具体的な取組 12 の部分になるのではないのかなと思えます。障がい者がそういった情報を得たり、学ぶという意味では、ここに細かい事業は入ってくるのかなと思えます。

3 番目はこの計画全体の話のことだと思えます。当然、中をチェックしながら見て行かなければならない。これは文言に入れる入れないではなくて当然のこととして評価は必要だと考えます。

議長 施策 II の施策の展開 08 で「個人と企業、団体、行政が共同で」となっていますが、個人と企業で切れてますよね。

課長 これは書きぶりの問題で、全部点にした方がいいですね。「と」を削ります。

委員 間に入って申しわけないのですが、制度的に対応しきれないところにも情報提供するのですよ、ここに触れられているのですよ、とのお話でしたが、でもここで DVD を生涯（学習）課が作るよ、と言っても、婦人問題について扱ったもの出すわけではないので、トータルに情報提供するということを担保する必要があると思うのですが、先ほどの説明は留意点として記載するという意味だったのでしょうか。この文章の中にこの旨を確認しておけよという意味だったのか、それとも……。個々の各部署で検討されて、DVD で出すとか点字で出すとか、わかったのですけれど、ただ、生涯（学習）課が検討しますよと言っても、全ての分野に生涯（学習）課が入って対応できるわけではない。調整しながら、例えば子どもの問題、子育て、発達障害をどうするのだ、虐待どうするのだ、という情報等々についても、あらゆる人たちに、情報提供する保証を作っていく必要があるのかなと思っています。それを他部署に一任するのではなくて、留意しますよ、というところで、明文化する意向だったのかな。

課長 それについてはですね、イメージとしては生涯学習推進計画の中に各部署でやっている事業というのがぶら下がっていますので、むしろ障害の方で作った計画の中にですね、我々の事業が下にくっつくイメージになっています。具体的に何をやるのか、生涯学習推進計画の中ではなくて障がい者の計画の中で、生涯学習課が何をやって行くのかということになって行くのかなと思います。

委員 違うのです。社会教育委員会の中で ICT を活用した取組をやって行くよ、だけど環境を考えると機械操作を知識がない人たちを含めて情報を漏れなく提供できるようにしておかないと、これだけ膨大なシステムを作っても、利用できる人が限られてしまう可能性がある。なぜならば、その情報を共有するような仕組みを作っていくよ、もとろんそれは担当部署がやるのだけれども、それを任せるのではなくて、常に僕たちも留意しながら見て行くよ、遂行していくよということを明確にしてほしい。

課長 障がい者の計画の中で我々が何が出来るかということで進めて行くのが、別に縦割りというわけではなくて、棲み分けて行かなければならない部分はあるのですよね。障がい者の計画の中で障がい者に情報が伝わるような仕組みを作るという書き方があれば、それでは市

の中でどんな情報があるのか、ということになって行くとなれば、生涯学習推進計画の中にはありませんが、市の計画で情報御きちんと伝わるようにしましょうねとか、例えば生涯学習課にはこういった計画がありますとか、こんな事業をやっていますとか、どうやって伝えて行くかということになってくるのですけれども。

委員 税金で作られた制度が、市民にもれなく恩恵にあずかるということは常に留意してますよね。課長の言うように障がい者の部署で配慮するよと言ってますけれども、高齢者を含めて年少者を含めて障がい者ではないですよ、そういう障がい者ではないけれども情報から取り残されてしまう人たちにどういう風に提供して行くか。それをどうするかは本人が決めることでそういう人たちに全部届けなさいよとは言いませんが、常にそこところは留意なければ、そこを社会教育委員が合意したうえで準備して進めたいと思います。

課長 そうなってくると、もっと大きな話になってくるのかなと思います。生涯学習推進計画の中でということではなくて、苫小牧市で言えば市民参画条例とかがありますので、その中で市民に分かりやすく情報提供するにはどうするか、全ての市民に平等に情報提供するにはどうするか、ということはそこで進められていますので、その中で我々も当然拘束されますので、そこでの議論になってくるかと思います。いかがでしょうか。

委員 理屈はわかりました。

課長 生涯学習推進計画を伝えなければならないことは、そもそも根本的に市民参加というところで規定されているのですよね、ここで書かなくても。そういった前提があるということでご理解いただけると。

議長 全庁的なことですかね。だから生涯学習課だけではなくて・・・。

課長 個別で全市民にわかりやすく提供してますよと、あえて書かなくても、それはやらなければならないこととして市の中で共有されていることになっております。どこまでできているかは何とも言えないところではありますけど、まだまだ途上の部分はあると思いますが。

- 議 長 いいですか、それで。
推進の方向性3「ICTの活用による学習環境の充実」ですが、全ての
人にデジタル端末と書いていますが、全ての人ができるわけではな
い。どこかにデジタル社会に対する救済を書いてもらえると。
- 課 長 ここではサポート体制を充実させるということで考えているので
すが、施策の展開10のところ、デジタル端末の活用をサポートする
一方で、紙媒体による情報発信のメリットも考慮しながら、というこ
とでカバーして行く、全部をこちらに移行しますよということでは
なくて、これまでのものを継続しながら少しずつ移行して行くとい
うイメージで下の展開でも書いています。
- 議 長 施策の展開09「ボランティア活動の啓発と支援」で、文章を読むと
ボランティアがいいように使われている感じがする。もうちょっと
ほめろとは言わないが。まちづくりに欠かせないというが、ほんとに
それだけなの。ボランティアが参加する、例えば物を運ぶボランティ
アは一人じゃない。その時に危険というものがある。障がい者を助け
るのに一般のボランティアはどうやって対応していいかわからない
で間違いを起こしてしまうかもしれない、そんなこともボランティ
アがやらなければならないのか。
- 課 長 例えば23のところに加えてボランティアの学習する機会を設ける
とか。24に研修の機会を設けるとか。ちょっと考えますね。
- 議 長 研修が入っていればどちらでもいいです。
- 議 長 ボランティアという言葉があっちこちに出てくるからどこに入れ
ていいかわからなくなるね。
- 委 員 ボランティアが重要だということは僕も認識しています。ボランテ
ィアだけでいいのか、生活の基盤にボランティアを乱発することが
いいのか、公的な責任を明確にしていけないといけない。
- 議 長 施策の展開13「まちづくりへの参加促進と学習の成果を生かした
市民参画」の文章の中でインプット、アウトプットとありますが、よ

くわからない。

課長 要するに自分が学習するだけではなくて、人に教えるとかとかそういうイメージです。言葉の整理をします。

議長 場を作るのもひとつだし、教えられた人が教える側に回っていい状態に結び付けば。

それと施策の展開 14 「高等教育機関などの講座や教室との連携」なのですが、「学びの継続につながる取り組みを進めます」とあるが、違和感があるのですがどうでしょう。

皆さんは何かありますか。

委員 この伝え方はね、多くの皆さんに分かるように作らなければなりませんね。話がずれますが、コロナの検査を受けることに電話の受付をしない医療機関が多い。ホームページではメールアドレスを入れなければならないようになってきている。医療機関が満杯なので仕方のない部分もあるが、私のような60代、70代、80代は持つてると持つていない人がいる。メールアドレスの知識もない人たちにコロナの検査が受けられないということに僕は愕然とした。基本的な問題やパソコンの使い方を知らない人たちにも援助を、研修を含めてね、設けてもらえないか。

課長 個別の事業で障がい者向けのパソコン教室もありますし、そういったものは当然やって行きます。

委員 了解しました。ただねえ、ほかの部署で書いてあるからここで触れなくていいとは、正直言って計画はここだけでやるわけではないでしょう。いろいろなところでの取り組みを含めて協力してやって行きましょうと。ほかの部署で文書化しますからここでは書きませんよと。全部が全部書くことができないのはその通りだけれども、柱になる部分は最低限必要だと思います。議論したことについては了解しました。

次長 先ほどのこととは違うと思いますが、今の話は正に生涯学習として高齢者に対する ICT だとか、ICT の学習機会を作るとかは、個々の計画でやるべきところで、文言として入っているべきだと思います。

- 議 長 では、基本政策Ⅲについて、お願いします。
- 課 長 （基本施策Ⅲについて説明）
- 委 員 施策の展開16の「音楽やアートに関連する事業の展開」について、もっともっと事業をやっているグループを応援して重視すべきかなと思っていて、管轄はどこになるのですか。
- 課 長 所管としては生涯学習課になります。市民が行うイベントなどに補助金などを用意しています。文化芸術については、先ほどお話ししたように別の条例があって計画があり、文化芸術審議会というのがあります。そちらが中心となってやっております。
- 委 員 基本施策のⅠに戻るのですが、第五次の計画にあって、第六次で消えてしまったのが出前講座のことなのですが、この中で時間や休日も含めて積極的に市民生活に合わせて口座を設けようねというのが、六次で消えちゃったのですよね。日曜日とかに職員の方が講師として出るのも大変だなと重々認識しているのですけれども、でも共働きが広がってきているときに、参加する人が非常に限られてくる。そういうときにどういう風にフォローして行くのか、休日や夕方にやるということを最初から投げてしまうと、市民参加にとっては支障になってしまう。もちろん職員の皆さんの生活や労働環境を守って行くのは当然で、無条件にやるということではないですけれども、前回展開していたのと同じように六次にも反映してもらいたいなと思っています。
- 課 長 施策の展開03の具体的な取組9で、記載されている形で、ちょっと表現が市民ニーズに合わせた講座という形で、書き方は前ほど具体的にではないですけれども、基本的には考えとしては今おっしゃられた通り当然含んではいます。もっと言えば、まだまだ難しいでしょうけれどもほんとはボランティア休暇ではないですけれども、市民自身が仕事を休めるとかそんな世の中になってくれるともっといいのかなという気もしますし、お互いに歩み寄れるところが今後あるのかなというのが個人的にはあるのですが。当然参加しやすい方法というのを模索しながらやって行かなくてはならない。

- 委員 実態として日曜日に出前講座を要請しても断られる。
- 課長 そうですね。出前講座は勤務時間内にやるということですので。
- 委員 五次の計画から六次になったときに、文言自体に気持ちはありますよ、でも文言を外してしまいますよ、というのでは実態では断られるのでそれを追認することにならないか。無条件で時間外も関係なしにやれということではなく、参加者の条件に合わせてお互いに努力して行くということを、そのことを残すような表現をしてほしいなど。
- 議長 出前講座ってどの部分を指しているの。
- 委員 市民の皆さんにこういう講座を開く用意がありますよとホームページで表記してある。それを見た市民がそれぞれの課に依頼するのですが、「市民のニーズに合わせた」というのですが、ニーズというのは要求ですから、このことについて課題ですからやってくださいよと、合わせたというのは、整合性があると思うのですけれども、時間帯をニーズとして表現されているというのは。
- 課長 その次の「参加しやすい」ですね。表現がちょっと前はもうちょっと具体的だった。
- 委員 僕は積極的に、例えばコロナで市民会館の小ホールでやります2、30人で。そうすると少人数できめ細やかにやるときに地域の方に出て行くだとか、町内会館を使ってやるだとか、様々な形態が検討されなければいけない要素をはらんでいる。やっぱり提供する側も相談に応じますよ、でも、要請しても日曜日は無理ですよということを、はいそうですか仕方ないねと追認できるのかなと思います。
- 委員 これは企業も含めて極めて難しいかなと思いますね。私町内会の副会長をやっていますが、町内に内科の先生がいらっしゃって、内科の先生をお呼びして、いわゆる出前ですよ、お願いしたら快く引き受けてくださって。回覧したところ、地域の老人が中心でしたけど集まってもらったり、社会福祉協議会に頼んで講座を開いてもらったり、

若い人がいないものだから、普通は仕事のない人が集まってきます、日中ですから。もちろん土日は頼まないようにしたりですね。そういうようなやり方で、逆に生涯学習として支援して行く、当然苫小牧市から補助金は頂いていますから、そういう中から予算付けして出前講座という形でやっています。市の職員だけが出前講座というのではなくて、専門的な方、土日勤務であれば美術博物館に頼んだり、工夫をしてやれる範囲のこと、また逆に積極的にやる方向を見せてほしいというかですね、そういう風にやらせてもらってます。非常に安いですけどね、お願いする感じになりますけれども。

次 長 おそらくこの計画の中で自分たちがやっている講座なら、積極的に土日でも実施すると言いたいところなのですが、それぞれの企業さんですとか、市の違う部署、いろいろな出前講座を管理している側としては先ほどおっしゃられたように日曜日であればこんなところありますよという風にご案内ができるとか、書き方としては市民ニーズに合わせた学びの支援というところが落としどころなのかなと感じるのでありますが、全ての出前講座を管理しているので、問い合わせがあれば答えるというのが実態なのかな、と。

委 員 繰り返しになりますが、やむを得ないということで日曜日が最初から可能性をシャットアウトされてしまうと困る場面も。内部で文章化はできないけど市民の参加しやすい形態を、内部的な意思統一も含めてやっていただいていたほしいなと思います。先ほどのお話にもあるように、参加する人は高齢者ばかりなのですよ。若い人は SNS だけで事足りる仕組みをどこかで作る必要があるし、そのためには若い人か参加できる条件をどういう風に広げて行くのか。

議 長 内容にもよるけれども ZOOM などを使って、それで配信するのはどうですか。講座などそういうのを使ってするのもあるのではないですか。あとはお話のできる人をボランティアで増やして行く。

課 長 いろいろ方法はあるかと思いますが。当然今おっしゃられたような考え方というのは大事にしなければならないと思います。ボランティアにしても、それに頼りすぎるのも難しいところもあるのでしょうか、

- 議 長 是非話したい人もいるだろうから、その場所がないだけで。そういうのを発掘して行かないと。それこそネットワークね。
- 課 長 いつでもどこでも見ることは大事ですね。いろいろ考えてみるのは必要ですね。
- 委 員 2点あるのですが、一覧表の一番最初の基本施策Ⅰの推進の方向性Ⅰの施策の展開01の具体的な取組2「生きる力」や「共感力」を育む、0歳から学びに親しむ環境づくり」についてですが、「生きる力」という文言については、教育現場ではよく使っていてわかるのですけれども、「共感力」というのが分からなかったのですよね。2点目は今私が説明させてもらったように、項目の数字の使い方なのですけれども、もっとわかりやすいようにできないのかなと。
- 課 長 番号については、(1)とするとか。一点目については、委員からも出ていたのですが、お互いに相手を思いやるとか相手のことを考えるとかですね、自分だけで生きているのではなく他人のことをきちんと考えられるような力を育むというようなことが考えられます。
- 委 員 わかりました。「生きる力」という言葉も一般的には聞きなれない言葉だと思うのですが、教育現場ではすごく使われる言葉です。教育現場ということで言うと「共感力」あまり聞きなれない。「協働的学び」という言葉は使うのですけれども。
- 次 長 「生きる力」に全部入っている。
- 課 長 ダブっているとは思いますが。
- 委 員 言葉は確かに「共感力」と言われてもパツとはわからない。発達障害の中ではよく言われる言葉なのですよね。相手の立場で物事を考えることの積み重ねが共感力の要素になっている。
- 課 長 思いやりの心というのが一般的なのかもしれませんが、そうなるという意味がちょっと狭くなる。
- 委 員 今聞くとよくわかるのですけれども、並べると・・・。

- 課 長 パッと見たときの印象も大事ですので、市民の皆さんは白紙の状態で見ますので、そこは非常に大事なところだと思います。
- 委 員 1年ごとに確認しながらこういうことは検討した方がいいとかそういう風にして計画を進めて行くとか。
- 課 長 各事業それぞれぶら下がっている事業については、1年間でどれだけできたか各課に調査して作って行くことにはなりますけれども、ここでは具体的な取組の下にぶら下がっている事業ですね、どれだけ到達したかによって、それが評価になるかな、そういった形で調査し提案することにはなっております。他の計画もそういう風に進んでいるはずです。取組の実態を年度終わったら調査して、各審議会に諮る仕組みになっています。これからその形を作って行くことになります。
- 次 長 5年間だけではなくて、当然年度ごとの評価は内部で行きますし、特にコロナ過だったから基本的には五次を引き継いでという形ですけれども、この後社会情勢が変わるわけで、5年とは言っても、中での見直しということもあるかもしれないかなと思います。2年3年で変わるかもしれない。そういったところも柔軟に対応しながら進捗管理をして行くということだと思うので。
- 委 員 そうですね、毎年やってほしいということですかね。
- 課 長 計画ってそういうものかなと思っています。具体的な方法はまだ作っていませんので、これが整理し終わったら事業がどんなものか整理して1年間の進捗状況を管理して行くことになります。そんな形にしたいと思っています。
- 議 長 これでよろしいですか。
次の開催はどうなりますか。
- 課 長 今日のお話を整理して、そちらの資料はお配りしようかと思っています。2月の2週目には開きたいと思っていますので、決まりましたらお知らせいたします。

議 長 今日はこれで終了いたします。

(16時20分終了)